

# 岩手初のフェリーで 北海道の旅へ!



室蘭市の工場夜景(白鳥大橋)

**宮古⇄室蘭 10時間**

**宮古～室蘭間を結ぶ  
1日1便の旅客フェリー**

宮古発	室蘭着
8:00	18:00
室蘭発	宮古着
20:00	6:00

■車両積載能力／  
トラック69台・乗用車 20台  
■旅客定員／600名  
特等室10名(2名×5室)、1等室88名(洋室4名×17室、和室4名×5室)、2等寝台60名、2等室362名、ドライバーズルーム80名  
[問]川崎近海汽船(株)宮古支店 050-3821-1546

※1 花巻～東和間を除く ※2 岩手県内は無料

## フェリー就航で復興を後押し、 人の交流と物流がさらに拡大

6月22日、宮古港と室蘭港を結ぶ、岩手初のフェリーが就航しました。第一便の出港には、多くの地域の方々が駆け付け、新たな船出を喜び合いました。

県では、東日本大震災津波で大きな被害を受けた4つの重要港湾を「対象とした」岩手県重要港湾利用促進戦略」を策定し、港湾の一層の利用拡大に努めてきました。宮古港は、フェリー航路誘致に向けて動き出したところ、川崎近海汽船株式会社から航路開設の提案を受け、一昨年の3月に正式に決定しました。

フェリーの就航地として宮古港が選ばれた大きな理由は、復興道路等の整備です。三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の全線開通後は、宮古・盛岡間は片道1時間15分、宮古・仙台間は片道約3時間で結ばれます。しかも、復興道路等は一部区間を除いて高速料金がかからない上、三陸沿岸は積雪が少なく冬季の安定した輸送が可能など、低リ

## 快適な船旅で北海道へ、 旅の魅力と選択肢が広がる

フェリー就航は、旅の選択肢を広げ、観光面での効果も期待できます。県沿岸広域振興局と北海道胆振総合振興局が連携推進に関する協定を結び、物産展など、お互いの観光情報をPRするなど、新たな交流が始まっています。

海の道をつなぐのは、定員600名の「シルバークイーン」。海を一望できる展望浴室や24時間利用可能なオート

スク、低コストにつながる条件がそろっているのです。

また、トラックドライバーが十分に休息できる10時間という乗船時間も理想的でした。

宮古・室蘭のフェリー航路開設によって、多種多様に広がる輸送ルートの選択肢。地元出身者の採用など雇用の創出をはじめ、製造業や観光など、さまざまな産業の活性化につながることを期待されています。



フェリーの乗降口となる宮古港フェリーターミナル。3階には防災倉庫、屋上には避難スペースがあり、津波襲来時の避難機能を備えています。

レストランなどを備え、ゆったり船旅を楽しめる施設が充実しています。

宮古港を出発した船が到着する室蘭港は、日本有数の工業港で、特に工場夜景が楽しめるナイトクルージングが有名です。また、室蘭地域には、ジオパークをはじめとする豊かな自然があります。札幌まで、約2時間で移動できるため、岩手からマイカーを伴って、ゆっくり観光スポットを巡ってみるのもお勧め。フェリーでのんびり、北海道への旅に出かけてみませんか。

### 北海道胆振総合振興局 しおり 寺井詩緒理 主事



岩手の皆さんこんにちは。ついに岩手県と北海道がフェリーでつながりましたね!到着先となる室蘭市は「胆振(いぶり)」という地域にあります。ここには、登別温泉や洞爺湖(とうやこ)有珠山(うすずん)ジオパークといったさまざまな観光資源があり、多彩な農水産物や「室蘭やきとり」「カレーラーメン」といったご当地グルメなど食資源も豊富です。ぜひフェリーで胆振の魅力を感じて来てください!

### (公財)さんりく基金 三陸DMOセンター 北田耕嗣 観光プロデューサー



岩手から北海道への旅の選択肢が広がり、また、岩手を訪れる旅行者や修学旅行生の増加が期待されます。三陸DMOセンターでは、沿岸地域の連携を図りながら、新たな観光資源を活用した旅行商品の企画を行う人材育成に取り組んでいます。岩手らしいおもてなしで、北海道からのお客さまに、地域の魅力を伝えていきましょう。